



『明けない夜はない』と
信じて



教育学部同窓会長
白杵 勇人

日頃より同窓会活動にご理解
とご協力を賜り感謝申し上げます。
未だ収束を見通せないコロナ
禍で、学生並びに子どもたち一人
一人の生命と健康を守るための感
染防止策を講じ、活力ある教育活
動を展開している同窓生、教育関
係者の皆様に心より敬意を表しま
す。

昨年度は新型コロナウイルス感
染拡大防止のため、教育新報発行
以外の同窓会活動の全てを中止せ
ざるを得ませんでした。本年度も
蔓延防止措置法及び緊急事態宣
言、変異ウイルス出現で多大な影
響が出ていますが、春の訪れとと
もに、教育学部にも希望に満ちた
百八十人の学生が入学してしまし
た。小学校教員養成に特化した学
生の入学です。令和三年度から全
国的には小学校の三十五人学級化
が始まり、情報通信技術（ICT）
の活用も本格化するため、教員確
保は喫緊の課題となっています。
現在は学部ごとの入学式を終え、
非対面のオンライン授業と対面授
業を駆使したハイブリット授業を

行っていると聞いています。

同窓会の活動では、まだまだ
予断が許せない状況であるため
事業計画を審議する六月の「評
議会」を書面表決いたしましたし
ました。また、三密を避けるため大
勢が集まる会合の自粛はもとよ
り、参加者の健康と安全面を第
一に考え、九月の「同窓生の集
い」も中止する予定です。詳細
は、ホームページで情報提供し
ますので、ご覧いただきたいと
存じます。

今後の見通しが立たない状況
ですが、『明けない夜はない』
と信じて、六十六年目を迎えた
「会員相互の親睦と資質向上を
図り、母校の発展に寄与する」
同窓会活動を粛々と行つて参り
ますので、ご理解とご協力をお
願いいたします。

結びになりますが、同窓会副
会長の渡邊勝様が現職校長で五
月にご逝去されました。これま
での多大なご尽力に感謝すると
ともに、心よりご冥福をお祈り
いたします。

お知らせ

- 本年度中止する事業
- ① 「同窓会第一回本部会」 5月
- ② 「同窓会評議会」 6月
- ③ 「カミングホームデイ」 8月
- ④ 「同窓生の集い」 9月

令和二年度は、コロナウイルス感
染防止の観点から全ての同窓会行事
が中止となりました。

その勢いは本年度になつても衰え
ず今も非常事態宣言や蔓延防止対策
が全国に出されております。県内
においても大人数の集会の開催及び参
加自粛、感染拡大地域への移動自粛
など人流抑制の措置がとられており
ます。

新潟大学でも、少しずつキャンパ
スに活気が戻ってきたように感じら
れますが、変異ウイルスの感染拡大
やワクチン接種の進行状況を考える
とまだまだ油断はできません。

そうした状況を勘案して、当同窓
会におきましても、感染拡大防止の
観点から年度当初の「本部会」「評
議会」を中止いたしました。

また、誠に残念ではありますが「カ
ミングホームデイ」「同窓生の集い」
の中止を決定いたしました。「全学
同窓会交流会」については、内容の
変更を検討しているところで、

誰もが安心安全な気持ちで参加で
きる日を心待ちにし、今を耐えてい
きたいと思っております。ご理解の程よろ
しくお願いいたします。

情報交換
情報発信

新潟大学
教育学部同窓会
ホームページ



令和3年度 専門部活動計画

研修部

部長 小林 由希恵

広報部

部長 保坂 章夫

組織部

部長 長沢 剛

交流部

部長 永井 高志

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人的な資質の向上を目的として、「同窓生の集い」事業を計画実施してまいりました。令和二年度は、前新潟市教育委員会教育長前田秀子様からご講演をいただく予定でしたが、白枿会長より、ご判断をいただき、中止とさせていただきます。

(中止判断の根拠)

①新型コロナウイルスの終息の目処がたないこと

②参加者の不安を拭い得ないこと

③参加者の健康安全の確保、対策強化が難しいこと

④三密を避けられないこと

今年度は、ワクチン接種は始まっているものの、未だ希望する会員全ての接種終了時期は見通せない状況にあり、前述の不安要件の解消には至っていません。そこで、令和三年度についても、「同窓生の集い」を中止させていただくこととします。講演に向けてご準備いただきました前田様、参加を楽しみにして下さった会員の皆様には、二年続けての延期となり、ご迷惑をおかけいたしますこと、お詫び申し上げます。

なお、昨年度に引き続き、教育新報に研修部特別企画「先輩（同窓生）を訪ねて」を掲載させていただくこととなりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

一 基本方針

○同窓会の活動や会員の声、大学との連携を密にした広報活動を推進する。

○四色刷りカラー印刷を継続して発行する。

二 活動内容

「教育新報」年間二回発行

○第一八一号（七月二十日発行予定）

巻頭言、令和三年度専門部活動計画、同窓会本部役員・支部長・学科代表一覧、令和二年度決算報告、令和三年度予算、大学コーナー、就職大学院実践報告、花鳥風月、先輩を訪ねて

○第一八二号（二月二十日発行予定）

巻頭言、花鳥風月、「全学同窓会交流会」「大学との懇談会」等の各報告、学科や支部の活動紹介、学校紹介（小・中・特支学校）、会員の広場、大学コーナー、先輩を訪ねて

三 その他

○昨年度同様、コロナ感染状況に応じて掲載内容が変更となる。

一 活動の重点

(一)事務局及び学部、就職大学院教育実践学(研究科)と連携し、会員の連帯意識の高揚に努める。

(二)事務局、支部長、学科代表と連携し、永年会員となる学生及びその保護者、既に永年会員である現職に対して、同窓会員である意識を高めるとともに、同窓会活動への理解を得るよう努める。

(三)各専門部と連携し、各事業の組織運営に関わるサポートを行う。

二 活動の内容

(一)支部長会及び学科代表者会の開催

・例年、評議会終了後、学科代表者会と支部長会を同時時程で開催していたが、昨年度に引き続き、今年度も行わない。

(二)交流部事業カミングホームデイを開催する場合のサポート。

(三)研修部事業講演会での講演会を開催する場合のサポート。

三 その他

・事務局と連携し、学部入学生、学部卒業生（教職以外の職に就いた方を含む）、支部長、学科代表者とのつながり強化に努める。

令和三年度の交流部の活動は、大きく三つ予定しています。

一つは、八月下旬に予定している「カミングホーム・デイ」です。これは、卒業・修了生の現状や学部・教育実践学(研究科)への要望、同窓会活動への提言等について情報交流を行うものです。しかし、現在のコロナ禍の状況を鑑み、残念ながら本年度も中止することとしました。

二つは、教育学部並びに教育実践学(研究科)教職員と同窓会との「懇談会・懇親会」です。これは、互いに現状を報告し、交流を深め、意思の疎通を図るものです。令和四年一月中旬を予定しています。現時点では、開催の有無は、まだはつきりしていません。コロナ禍の状況が改善されなければ、中止も有り得ます。

三つは、各種教育関係機関や他団体等との連携促進です。全学同窓会が主催する「新潟大学全学同窓会交流会・懇談会」への参加を予定していますが、状況により、中止も有り得ます。

令和3年度 同窓会本部役員

< 任期は令和3年度～令和4年度 >

☆印は新役員

役職	氏名	支部	校名など
会長	臼杵 勇人	新潟東	自宅
副会長	齊藤 裕子	新潟秋葉	結小学校
	関川紀美子	新潟田	藤塚小学校
	瀬藤 雄二	長岡西	大島小学校
事務局	杉山 和敏	新潟西	教育学部同窓会事務局
	高橋 円		
専門部	研修部	◎小林由希恵	新潟南 味方小学校
		○小泉 慎子	新潟中央 鏡淵小学校
		志田江利子	新潟東 牡丹山小学校
		間 裕太	新潟北 早通中学校
	広報部	◎保坂 章夫	新潟江南 曾野木小学校
		○音田 和行	新潟西蒲 新潟市立総合教育センター
		若月 利春	新潟西蒲 漆山小学校
		高橋 新一	新潟南 味方小学校
	組織部	國井恒太郎	新潟中央 紫竹山小学校
		◎長沢 剛	新潟秋葉 矢代田小学校
		○古井丸裕三	新潟東 東区教育支援センター
		樋口 大輔	新潟西蒲 曾根小学校
加藤 雅晃	新潟東 桃山小学校		

役職	氏名	支部	校名など
専門部	交流部	◎永井 高志	新潟中央 新潟市教育相談センター
		○小泉 浩彰	新潟東 岡方中学校
		古川 智子	新潟秋葉 新津第一小学校
		藤田 凌☆	新潟中央 上所小学校
		八坂 剛史	大 学 新潟大学教育学部
	監事	石塚 智久☆	新潟秋葉 新津第一小学校
		松井 裕美	新潟西蒲 和納小学校
		牧野淡紅恵	新潟北 濁川中学校
	顧問	中川 幸次	県 外 自宅
		江口 直禎	新潟中央 自宅
		大関 雄策	新潟中央 自宅
		磯辺 浩昭	新潟田 自宅
藤井 保男		新潟東 自宅	
斎藤寿一郎		新潟東 自宅	
佐藤 重勝		新潟秋葉 自宅	
安達 徹		新潟秋葉 自宅	
新潟大学全学同窓会	理事	臼杵 勇人	新潟東 自宅
	運営委員	加藤 文子	新潟江南 自宅
		山下あい子	新潟西蒲 自宅
		畠山 典子	新潟中央 新潟市児童センター
		岡村 浩	大 学 新潟大学経済科学部

令和3年度 同窓会学科代表

☆印は新代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国 語	三村 孝志	猿橋中学校
2	地 理	西方 俊也	大淵小学校
3	歴史研究室	高橋 裕幸	東山の下小学校
4	経 済	小庄司一泰	小須戸小学校
5	哲 倫	清野 真輝	真砂小学校
6	社 会	土田 宏美	内郷小学校
7	算 数 (親話会)	小杉 洋一	今町小学校
8	数 学 (談話会)	小竹 智☆	月潟中学校
9	物 理	茂呂 良彦	自宅
10	化 学	栗林 操	田上中学校
11	生 物	八百板恵理子	新潟市教育相談センター
12	地 学	佐久間州彦	安野小学校
13	英 語	春日 孝児	県立三条高等学校
14	音 楽	斎藤 隆	白南中学校
15	美 術	永井 高志	新潟市教育相談センター
16	保健体育	小林 久哉	葛塚東小学校
17	家庭 [萌木会]	長谷川道子☆	自宅
18	職業指導	松村 明彦	自宅
19	教 育	山岸 真夫	自宅
20	教育心理	岡田 義則	早通小学校
21	技 術	上野 一志☆	亀田中学校
22	特別支援教育	樋口 杏子☆	附属特別支援学校
23	養教特別別科	古田島直子☆	県立新潟南高等学校
24	幼児教育	近藤 和徳	西幼稚園
25	学社ネットワーク	小柳加奈子	自宅
26	生活科学	遠山麻依子	光晴中学校
27	生活システム	大森 山	城北中学校
28	健康スポーツ	大口 良平	根知小学校
29	書 道	岡村 浩	新潟大学経済科学部

令和3年度 同窓会支部長

☆印は新支部長

地 域		支 部	支部長	校名など	
上 越	1	上 越	小柴 崇☆	浦川原中学校	
	2	長 岡 東	川田 昌宏	中越教育事務所	
	3	長 岡 西	小林 剛	下川西小学校	
	4	三 条	櫻澤 康☆	井栗小学校	
	5	柏崎・刈羽	田村 芳彦	日吉小学校	
	6	小 千 谷	稲田真砂美	総合支援学校	
	7	加 茂	佐藤 康子☆	須田小学校	
	中 越	8	十日町・津南	庭野 紀元	東小学校
		9	見 附	小林 雄二	見附小学校
		10	燕	坂内 克明☆	分水北小学校
		11	魚 沼	大塚 育子☆	小出小学校
		12	南 魚 沼	阿部 一之	五十沢小学校
		13	弥 彦	白川 亮治☆	弥彦中学校
		14	田 上	堀 和宏	田上小学校
		15	湯 沢	小見芳太郎☆	湯沢小学校
		16	出 雲 崎	五十嵐 悟	出雲崎小学校
下 越		17	新 潟 北	竹田 暢美	岡方第一小学校
	18	新 潟 東	伊藤 紀幸	下山小学校	
	19	新 潟 中 央	根岸 恵美	万代長嶺小学校	
	20	新 潟 江 南	川口由美子☆	東曾野木小学校	
	21	新 潟 秋 葉	間 由香利☆	小合小学校	
	22	新 潟 南	阿部 祐子	根岸小学校	
	23	新 潟 西	諸橋 智☆	五十嵐小学校	
	24	新 潟 西 蒲	笛木 晶子☆	潟東小学校	
	25	新 発 田	中野 隆一☆	七葉小学校	
	26	村 上	松田 洋平☆	村上小学校	
	27	五 泉	石田 雄介	五泉南小学校	
	28	阿 賀 野	樋口 憲哉☆	水原中学校	
	29	胎 内	伊藤 寿明☆	築地中学校	
	30	聖 籠	近藤 幸栄	亀代小学校	
	31	阿 賀 賀	大森 亨☆	三川小学校	
	32	関 川	高井 那弥☆	関川小学校	
	33	粟 島 浦	五十嵐蒼太☆	粟島浦中学校	
佐 渡	34	佐 渡	嶋見 靖之	両津中学校	

令和2年度 一般会計決算報告

(▲は、予算に対して減)

1 収入の部

項目	R2年度収入額	R2年度予算額	比較	摘要
1 繰入金	6,000,000	7,900,000	▲ 1,900,000	総合会計から繰入れ(2回)
2 雑収入	89,847	0	89,847	郵貯・銀行利息
合計	6,089,847	7,900,000	▲ 1,810,153	

2 支出の部

項目	R2年度執行額	R2年度予算額	残額	摘要
1 会議費	6,050	60,000	▲ 53,950	会計監査会場費
2 旅費	13,000	70,000	▲ 57,000	会計監査役員旅費
3 助成費	171,040	600,000	▲ 428,960	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事務局費	1,285,803	1,000,000	285,803	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、機器更新、送料等
5 研修費	10,400	390,000	▲ 379,600	教育長・佐藤先生訪問時土産代
6 広報費	778,860	790,000	▲ 11,140	機関紙発行・封入代、パンフNo.10作成代
7 組織費	215,600	300,000	▲ 84,400	クリアファイル代金
8 交流費	0	210,000	▲ 210,000	
9 大学・学生支援費	231,250	1,300,000	▲ 1,068,750	卒業論文発表会助成、卒業制作展助成、カレンダー作成、教育学研究科助成、附属校研究発表会
10 奨学金	750,000	750,000	0	大学院教育実践学研究所現職院生奨学金(150000×5)
11 全学同窓会費	458,603	590,000	▲ 131,397	負担金、全学交流会助成
12 人件費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬2名
13 その他予備費	20,000	40,000	▲ 20,000	新潟教育会助成
合計	5,740,606	7,900,000	▲ 2,159,394	

3 残高の部 6,089,847 - 5,740,606 = 349,241 円 *残金は、令和2年度総合会計へ繰り出します。

令和2年度 総合会計決算報告

(▲は、予算に対して減)

1 収入の部

項目	R2年度収入額	R2年度予算額	比較	摘要
1 繰越金	31,390,487	35,390,487	▲ 4,000,000	前年度繰越金(第四総合口座前年度末残金)
2 学校会員会費	2,557,141	3,200,000	▲ 642,859	会費 - 振込手数料
3 個人会員会費	152,545	170,000	▲ 17,455	会費 - 振込手数料
4 永年会員会費	3,517,372	5,900,000	▲ 2,382,628	会費 - 振込手数料
5 繰入金	349,241	0	349,241	一般会計への繰入金に残金が出たので、総合口座に戻した額
6 雑収入①	3,349	0	3,349	総合口座利子等
7 雑収入②	25,269	0	25,269	前年度残金
合計	37,995,404	44,660,487	▲ 6,665,083	

2 支出の部

項目	R2年度執行額	R2年度予算額	比較	摘要
1 一般会計繰出金	8,023,363	7,900,000	123,363	令和2年度・3年度用当座金
合計	8,023,363	7,900,000	123,363	

3 残高の部 37,995,404 - 8,023,363 = 29,972,041 円 *残金は、令和3年度第四総合会計に繰り越します。

大学教官の異動

(昨年度の七月以降)

◎学部を去られた先生

教授 鈴木 恵(国語科) 令和三年三月末日 定年退職

教授 横坂 康彦(音楽科) 令和三年三月末日 定年退職

教授 伊野 義博(教職大学院) 令和三年三月末日 定年退職

教授 垣水 修(教職大学院) 令和三年三月末日 定年退職

◎新しくおいでになった先生

准教授 佐藤 友哉(教育心理学) 令和二年九月一日 採用

助教 池田 恵子(保健体育科) 令和三年二月八日 採用

講師 高田 土満(数学科) 令和三年四月一日 採用

教授 本間 伸輔(英語科) 令和三年四月一日 昇任

教授 森 恭(保健体育科) 令和三年四月一日 昇任

教授 世取山 洋介(学校教育学) 令和三年四月一日 昇任

教授 中島 伸子(教職大学院) 令和三年四月一日 昇任

(敬称略)

令和3年度 一般会計予算

(▲は、前年度比較減)

1 収入の部

項目	R3年度予算額	R2年度予算額	増減	摘要
1 繰入金	7,500,000	7,900,000	▲ 400,000	総合会計から繰入れ
2 雑収入	0	0	0	
合計	7,500,000	7,900,000	▲ 400,000	

2 支出の部

項目	R3年度予算額	R2年度予算額	増減	摘要
1 会議費	60,000	60,000	0	本部会、会計監査会等
2 旅費	70,000	70,000	0	監査会旅費、全学同窓会旅費
3 助成費	400,000	600,000	▲ 200,000	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事務局費	1,500,000	1,000,000	500,000	ヤマト送料、電話・光熱費、印刷代、消耗品・印刷機交換等
5 研修費	350,000	390,000	▲ 40,000	集い企画運営費等(会場費、講師謝礼、参加助成等)
6 広報費	790,000	790,000	0	機関紙「教育新報」発行代、パンフ作成代
7 組織費	200,000	300,000	▲ 100,000	クリアファイル代金、研修部・交流部支援経費
8 交流費	200,000	210,000	▲ 10,000	交流会企画運営費、カミングホームデイ企画運営費
9 大学・学生支援費	900,000	1,300,000	▲ 400,000	研修会バス助成、卒業制作展助成、卒業祝賀会助成等、カレンダー作成
10 奨学金	750,000	750,000	0	奨学生5名
11 全学同窓会費	450,000	590,000	▲ 140,000	負担金、全学理事会・運営委員会旅費等
12 人件費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬2名
13 その他予備費	30,000	40,000	▲ 10,000	
合計	7,500,000	7,900,000	▲ 400,000	

令和3年度 総合会計予算

(▲は、前年度比較減)

1 収入の部

項目	R3年度予算額	R2年度予算額	増減	摘要
1 繰越金	31,390,487	35,390,487	▲ 4,000,000	前年度繰越金(第四銀行総合口座前年度末残金)
2 学校会員会費	2,600,000	3,200,000	▲ 600,000	会費 - 振込手数料
3 個人会員会費	160,000	170,000	▲ 10,000	会費 - 振込手数料
4 永年会員会費	3,000,000	5,900,000	▲ 2,900,000	会費 - 振込手数料
5 繰入金	0	0	0	*一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6 雑収入	0	0	0	銀行利息など
合計	37,150,487	44,660,487	▲ 7,510,000	

2 支出の部

項目	R3年度予算額	R2年度予算額	増減	摘要
1 一般会計繰出金	7,500,000	7,900,000	▲ 400,000	
合計	7,500,000	7,900,000	▲ 400,000	

花鳥風月

「わあ、ありがとうございます。」
 初めて自分のタブレット端末を手にした瞬間の子どもの目の輝きと歓声は記憶に新しい。

タブレット端末が導入されて十か月余り。授業では様々な場面に変化が表れている。外国語で話したい表現を翻訳アプリで調べて発表する子ども。プレゼンソフトでクイズを作って紹介する子ども。写真を撮って説明に生かす子ども。学び方の広がりを実感するとともに、子どもたちの適応力は素晴らしいと感じる。

そのような中、休み時間の様子にも変化が垣間見られた。教室には、プログラミングの練習に集中する子どもやタイピング練習に熱中する子どもの姿。以前は、友達と図書館に行っていたはず。体育館で元気に体を動かしていたはず。個人個人が端末に向かい、言葉少なに時間が過ぎるこの風景は、駅や病院の待合室を彷彿させ、違和感を覚えた。

タブレット端末導入によるメリットがクローズアップされる中、リスクにも目を向けることを忘れてはいけない。ネットワークでつながるだけでなく、顔と顔、心と心がつながるような教室環境を作りたい。

(広報部 国井 恒太郎)



新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、2019年度からはじまったGIGAスクール構想の実現年度が前倒しされ、学校でのICT環境の整備、すなわち「児童生徒の1人1台端末」と「高速大容量の情報ネットワーク」の一体的な整備が昨年度まででは完了しました。これにより、ICTを積極的にとりいれた教育が本格的にはじまりました。

初期段階である今年度は、既存の学習方法とうまく共存しながら、アナログをデジタルに置き換えることからはじめ、授業・業務の効率化や環境改善が進められています。新潟市教育委員会ではNIGATA GIGASU PPORT WEBを立ち上げ、1人1台端末を用いたICT活用授業を円滑にはじめられるように支援を行なっています。授業の効率化に加え、協働学習や様々な発展的な授業実現の土台形成にも貢献しています。新潟県教育

委員会は新潟県版GIGAスクール構想を発表し、新潟県におけるロードマップを明確にしています。今後は、教育DXが推進され、Society 5.0時代に対応したカリキュラムや学習のあり方、学校教員の業務、組織の改革が加速していくものと思えます。

ここまではデジタル化によるメリットになりますが、先生方によつてはデメリットも少なからずあったのではないのでしょうか。膨大な台数のICT機器の管理・整備、無線ネットワークも含む校内情報ネットワークトラブルへの対応、そして新たに発生した児童生徒のネット利用に関する諸問題への対応等、授業内外で業務が増加してしまつた事例を伝え聞きます。ICT支援員の学校への配置が検討されているので、実現すればICT機器とネットワークに関する業務の低減は期待されます。一方、児童生徒のネット利用等に関する問題に対しては簡単な解決策はなく、情報モラル教育を地道に行なつていくしかありません。

情報モラル教育は、道徳や技術・家庭科の授業の一部および年数回の外部講師による出張授業等、単発的に扱われることが多かつたかと思えます。低学年から毎日ネット利用するようになったいまは、初等中等段階を通して継続した情報モラル教育を行なっていくことが重要となります。そして、ネット利用に係る犯罪被害等を鑑みると、これまで以上に情報セキュリティを含

めたネットリテラシー教育に力を入れていく必要があるのではないのでしょうか。

新潟大学教育学部では、これまで20年以上にわたり教職のための情報教育を行なってきました。ICT活用に関連した初歩的な情報リテラシー教育（ワープロ、表計算、プレゼンテーションの使い方等）からはじめ、インターネット利用、パソコンやUSBメモリも含むセキュリティ対策に関する教育、情報ネットワークの基本的な仕組みを含んだ少し高度なIT教育と、プライバシーに富んだ内容を提供してきました。もちろん、その中に「情報モラル教育」もあります。しかし、初等中等学校での情報モラル教育と同様に単発（あるいは数回）での実施となつていること、1年次と3年次を対象とした開講となつていること等の問題点があるのも事実です。このため、教員を目指す学生全員に確実に情報モラル教育の指導力を身に付けさせるために、4年一貫した情報モラル教育を含む新たな情報教育を提供できるカリキュラムの改善と内容の見直しの検討をはじめました。

見直しの中で、プログラミング教育と並んで、私たちが重視している内容の一つが「ネットリテラシー教育」です。学生は全員がデジタルネイティブのため、20年前のようにICT機器の操作が苦手という人はほとんどいません。一方で、ネットの怖さを認識して

いないことが多く、近年はネット被害に遭う学生の数が増えているように思えます。このような状況のため、ネットリテラシー教育の内容をこれまで以上に充実させていく必要があると考えています。

ネットリテラシー教育は「ネットの特徴の理解」からはじまります。情報を受信する（受け取る）ときのリテラシー（情報の信頼性、セキュリティ等）、発信する（書き込む）ときのリテラシー（個人情報や機密情報、炎上リスク、SNS等での誹謗中傷、消えない書き込み等）を修得し、その内容をどのようにデジタルネイティブである児童生徒に伝えていくかについて学んでもらいます。教わる立場と教える立場の両面から基礎を学習した後、学校現場の先生方と連携して、成長段階に応じた教え方について学んでもらうことで、ネットリテラシー教育を含む情報モラル教育指導力を身に付けさせたいと考えています。

近い将来、GIGAスクール時代に必要な情報モラル教育指導力を身に付けた新潟大学卒業生が教員として学校現場に立ち、各自の専門教科に加え、情報モラル教育の分野でも活躍し、安心・安全なGIGAスクール環境の維持、将来の教育DX推進に貢献してまいります。



コミュニティ・スクール導入に向けた実践 学校経営コース

小林 大介(新潟市立白新中学校)

私は2022年度から始まるコミュニティ・スクールとは何か、そしてどのように導入していけばいいのか、そのための準備は何かが必要なのかを明らかにするため、教職大学院で研究を進めている。

国が全国の小中学校にコミュニティ・スクールへの転換を努力義務化した。その中で、新潟市も2022年度から全ての公立学校でコミュニティ・スクールの導入を決めた。しかしながら私を含め、多くの教職員はコミュニティ・スクールとは何かを分かっていない現状があった。そこでコミュニティ・スクールとは何か、国の考えや先進地区の取組、新潟市が導入する理由を調べた。また、白新中学校がこれまでの地域とどのような連携活動を行ったのかを調べた。

すると、コミュニティ・スクールが有効に機能している・継続している学校がある反面、継続して行われていない(形骸化している)学校があることが分かってきた。そこで、コミュニティ・スクールが有効に機能する・継続するためにはどのようにすればいいのかを考え、そのためには、「地域の核になる人がメン

バーになる」「多くの人が気軽に関われる活動」「コミュニティ・スクールによって生徒が成長」「教職員が前向きになる」が必要ではないかと考え、次の実践を行った。

- ①地域の人が気軽に学校の活動に参加できる新しい活動
- ②コミュニティ・スクールとは何か、どんな良さがあるのかを確認する職員研修
- ③地域の人と関わる機会が多い総合的な学習の時間の全体計画の再編
- ④③に関わって、新設した地域課題解決学習の授業計画と実践
- ⑤地域の人と教職員とが学校の教育目標を共有する熟議(学校づくり委員会)の開催

これらの実践の結果、それぞれの活動の意義は理解してもらったことはできたが、活動へ参加することや授業を行うことはハードルが高いことが分かった。2年目はコミュニティ・スクールが始まる準備の年と重なる。そのため、前述の課題の解決方法とともに、学校運営協議会でどのようなことを議題にしてどのような話し合いをするのか、そのためにどのような人にメンバーになってもらうのか、など考えていきたい。

教職大学院生 1年目の実践報告

文学的文章を読むことにおける 「読みの深さ」の評価と指導について 教育実践コース 平野 俊郎(新潟市立浜浦小学校)

私は、小学校国語科文学的文章を「読むこと」を研究対象にしている。読むことの授業において、「読みが深まった」「深い読み」という言葉がよく使われる。しかし、それは、どのような状態のことを言うのか、どのように評価することができるのか、どのように指導すれば、読みが深まるのか、これらのことを明らかにしていくことを本実践の目的とした。

1年目は、読むことの「評価」に焦点を絞り実践を行った。実践を行うにあたり、「深く読む姿」を次のように定義付けした。

「文章の部分と部分、部分と全体などを関係付けて自分の解釈を作る姿」

このように定義付けした深く読む姿を評価するために、「ルーブリック」を活用することとした。ルーブリックとは、子どものパフォーマンスの質を段階的に評価するための評価基準表のことである。

読むことの「評価」にルーブリックを活用した理由は、以下の2点である。

- ①子どもの「読み」は、見えにくい。

子どもがどう読んでいるかを、言語活動によって可視化し、それを解釈するための基準としてルーブリックを作成する。

- ②子どもの「読み」には、段階がある。

書かれている内容を正確に読み取れる段階、書かれている内容を読み取り、書かれていないことも想像できる段階など、子どもの読みの段階を具体的な姿として想定するためにルーブリックを作成する。

評価にルーブリックを活用した実践を行っての成果と課題である。ルーブリックを作成することで、単元後の子どもの姿を具体的に(パフォーマンスで)想定することになるので、単元の指導の見通しをもつことにつながった。また、子どもの読みを客観的に評価し、段階として捉えることができたので、次の時間の手立てを考える参考になった。その結果、A評価の子どもが増えた。

2年目は、読むことの評価にルーブリックを活用した実践を継続するとともに、より妥当性や客観性を高めるために、複数の教員でルーブリックを作成したり、評価したりすることも行っていきたい。また、子ども自身が自分の読みを自己評価することにも活用していきたい。

数学的活動を通じた指導に関する実践研究 教育実践コース 関谷 卓也

現在もこれからも、学校教育に求められることは、教育課程において「生きる力」を育むことであり、その核となることは、よい授業を実践することであると考える。

また、学習指導要領に明記されているように、数学の授業は「数学的活動を通して」指導していくことが求められている。

そこで、「数学的活動を通じた指導を具現化するにはどうすればいいか？」という課題意識のもと、数学の授業づくりについて、汎用性のある方法を研究している。

1年目の前期は「生徒はどのように数学を理解していくのか？」という点に着目し、調査・研究を行った。小山(2006)は、生徒が数学を理解するための状況設定や、深化の方向を示唆する理解モデルとして「2軸過程モデル」考案した。このモデルの横軸は、学習段階に関するもので、以下のような三つの段階からなる。

直観的段階：学習者が具体物あるいは概念や性質などの数学的対象を操作する。直観的思考を働かせる段階。

反省的段階：学習者が自らの無意識的な活動や操作に注意を向け、それらやその結果を意識化して、図や言葉などによって表現する。反省的思考を働かせる段階。

分析的段階：学習者が表現したものをより洗練して数学的に表現したり、他の例で確かめたり、それらのつながりを分析したりすることによって、統合を図る。分析的思考を働かせる段階。

この三つの段階の視点から私の授業を分析したところ、以下の問題点に気付くことができた。私の授業では問題を解くこと(直観的思考)ばかりに焦点を当てていて、なぜそう考えたか、考えたことからどのようなことが言えるか(反省的思考)や、問題の文脈から離れるとどのようなことが言えるか(分析的思考)といった思考を促すことが足りていない。

そこで、授業において生徒に反省的思考や分析的思考を促すような働きかけを行ったところ、授業者の説明ではなく、生徒の活動によって学びを展開することができるようになった。

引用文献

小山正孝 「数学理解の2軸過程モデルに基づく授業構成の原理と方法」『日本教科教育学会誌』第28回第4号、pp61-70、2006年

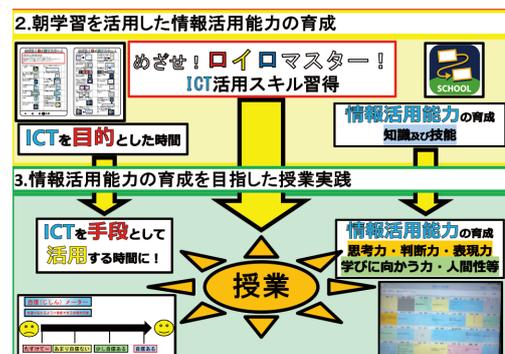
教職大学院生 1年目の実践報告

情報活用能力の育成を目指した授業実践 ～朝学習でのICT活用スキル習得編～ 教育実践開発専攻 長谷川 拓海

本実践は、初等教育において、主に以下の2つを目的として行った。①教科における授業で活用する前に児童全員が一定のICT活用スキルを身に付けること。②身に付けたICT活用スキルを活かし、手立てとして教科のねらいに迫ること。

3学年を対象として、朝学習の時(15分間×10)にICT活用スキル習得の時間を設定し、スキルの習熟を図った。(自作したロイロノートスキル一覧表を使用(右図))その後習得したICT活用スキルを手段として取り入れ、理科での授業実践を試行的に行った。朝学習での実践により、全ての児童がICTに関する一定のスキルを身に付け、ICT活用に関する力を底上げすることができた。この朝学習での実践は全校にも拡大し、2学年以上の全ての児童に対して行った。このように、朝学習でICT活用を目的とした時間を設け、情報活用能力の知識及び技能を鍛えてから教科の授業に臨むことで、授業でのICT目的化を回避し、よりICTを手段として活用することができた。理科の実践で

は、“じしんメーター”付き提出箱を活用することで全員が自信を下げることなく情報活用能力を育み、教科のねらいに迫ることができた。(“じしんメーター”付き提出箱とは、ロイロノートの提出箱にて学級全員の考えを可視化する際に、自信を4段階で表現したものの。(下図)このようにICT(ロイロノート)×対話を行うことで多くの児童が目的をもって情報を収集し、友達と対話をしながら思考力・判断力・表現力等を鍛えている様子を見取ることができた。



2年次では与えられた環境下でICTの良さを最大限生かし、対話の質を高める授業実践を行う。大学院での学びに感謝し、今後も学び続ける教師として努力する。子どもたちの未来のために。

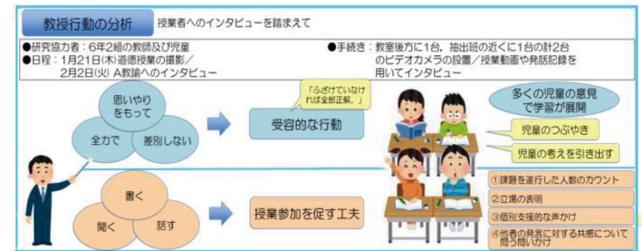
小学校における学習指導と生徒指導の一体化の視点からの教授行動分析

授業実践コース 有本 真秀子

日々の授業観察から、児童一人一人が学習に参加して学びを構築していくためには、学習指導と生徒指導が授業において一体化されていることが重要であることに気が付き、「小学校における学習指導と生徒指導の一体化の視点からの教授行動分析」というテーマで考察を進めた。

1年目の研究では、授業における教師の教授行動を児童の行動との相互作用として捉えて整理することを目的とした。児童が他者から受容されているという感覚をもち、授業に積極的に参加することを促すことに効果的な教授行動はどのようなものであるかにとりわけ焦点を当てた。課題検証実習では、日々の授業観察から学習指導と生徒指導の一体化が表れている教授行動を特定することを心がけた。さらに、観察した授業の発話記録を作成し、教授行動の意図について授業者に問いかけ、教授行動の背後にあるねらいについて分析した。その上で、私が行った分析と授業者の意図とを比較し、考察した。その結果、児童が教師と他の児童から受容されているという感覚をもち、授業に積

極的に参加することを促すことに効果的な教授行動をいくつか見つけることができた。そして、それぞれの教授行動は各教師の教育信念がベースとなっており、日々の児童理解の上に成立していることに気付いた。



1年目の研究成果を踏まえ、本年は、学習指導と生徒指導の一体化が実現した授業づくりの具体的な方策について研究を進めていく。

事務局だより

「書面表決」の報告

令和三年度は、コロナウイルス感染症防止の観点から6月の「評議会」を中止し、評議員(本部役員・支部長・学科代表)の皆さんから書面表決という形でご意見をいただきました。本部役員28名、支部長27名、学科代表21名、総計(76名の方々から)回答をいただきましたので、ご報告いたします。

□第1号議案(賛成75・反対1)

□令和二年度会務及び決算報告

□第2号議案(賛成76・反対0)

□令和二年度活動報告及び令和三年度活動方針(案)

□第3号議案(賛成76・反対0)

□令和三年度本部役員(案)

□第4号議案(賛成76・反対0)

□令和三年度予算(案)

※全ての議案についてご承認をいただきありがとうございます。

また、会費の徴収、決算書の表記、活動の重点と活動計画の整合性などについてご意見をいただきました。今後本部会、評議会を通して寄せられたご意見を検討し、皆さんと共有していきたいと思っております。同窓会の一層の発展に努めてまいりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

花鳥風月

昨年度の冬、新潟大学時代からの盟友の訃報が届きました。例年であれば、年に五、六回は顔を合わせ、互いの現状を報告し合い、過去の栄光を語り、愚痴をこぼし傷を舐め合うことができていました。しかし、コロナ禍により、一年近く会うことができていませんでした。そのため、どのような状況下でもがき苦しんでいたのか、残念ながら知るよしもありませんでした。

連絡を受けてからの日々はとても辛いものがありました。共通の知人と連絡を取り、悲しみを共有することがなんとか耐え忍ぶことができました。また、これまでに交わしたEメール、ショートメール、ライン等の履歴をあえて涙をこらえず、何時間もかけて読み返しました。今の自分があるのは、あなたのおかげと何度も何度も心の中で言い続けました。それと同時に、自分はあなたに何も返すことができていなかったことを何度も何度も後悔し嘆きました。あなたがこれまでに残した軌跡はとも大きく、私同様の思いをはせている人は数知れぬことと思いません。

今でもふと考えると空しさに襲われそうになりますが、コロナが落ち着き一日でも早く仲間と盟友について語り合いたいと思っております。

(第三十六期卒業生より)

研修部特別企画

先輩を訪ねて

齋川 英子 さん
(第二十一期卒業生)

研修部長 小林 由希恵

昨年度に引き続き、「同窓生の集い」に代わる研修部特別企画「先輩を訪ねて」をお届けします。今回は、

昨年度の叙勲で、教育功労の功績から瑞宝双光章を受章された新潟大学教育学部第二十一期卒業生齋川英子(えいこ)さんよりお話を伺いました。

齋川さんは、新潟市立東青山小学校校長を定年退職された後、新潟市立市之瀬幼稚園の園長として四年お勤めになりました。その後、専門学校の講師を経て、現在は新潟市内の小学校で学習支援ボランティアとして活躍です。

その一
大学闘争真っただ中、学問に憧れ、厳しいという評判の金子ゼミの門をたたいた学生時代

小林

「齋川さんの大学時代のエピソードをお聞かせください。」

齋川さん

「一番印象的だったのは、苦しんだ卒ゼミです。私は、金子忠雄先生のゼミでしたが、大変な苦勞をしまし

た。今日も持ってきたこれが、卒ゼミで読んだクルチェツキーの「数学的能力の構造」、数学的能力を取り扱った本です。金子先生から、原書をロシア語で読むのは難しいけれど、翻訳されたばかりだから読んでみないかと勧められたのがきっかけでした。上下二冊の本を一年間で読み解くという計画でしたが、始めてみたら一章を読み解くのに苦勞しました。」

小林

「題名だけお聞きしても、数学なのか、心理学なのか：難しさというのは、どのような難しさだったのですか。」

齋川さん

「ロシア語が分からないので原書に立ち返ることもできず、研究者が長年かけて研究したことを、まだ現場の経験もない学生が読み解くという意味での難しさもありました。考えても、考えても理解することができず、苦しみました。それでも、ゼミの後半はこれに沿った実践、アンケート調査のようなものを現場の先生に依頼してやっていたいただきました。」



小林
「実際の教育の現場ともつながる自身の濃い卒ゼミだったんですね。」

齋川さん

「これが大学時代の一番の思い出で、五〇年経っても強烈で鮮烈な印象が残っています。六人の仲間と学んだ卒ゼミから、たくさんのお話を学びました。」

ゼミを始める前に、これもまた、金子先生から、川喜田二郎さんの「発想法」を勧められて、ゼミの六人で読みました。発想がないと新しいものを創り出すことができないというお考えだったのでしょう。ブレインストーミングも今では当たり前だけれど、このときに学びました。」

小林

「同じゼミの方々とは？」

齋川さん

「絆は今も続いています。卒ゼミを通して、協力して成し遂げるということを学びました。独りよがりの方が、仲間と協力してやるということに気付かされました。結論がないという触れ込みでしたが、結局最後に六人でレポートを書き、共同で卒論にまとめました。この経験があったから、現場での研修は苦しくありませんでした。いい経験をさせてもらいました。私の原点なので、今でも時々振り返っています。」

小林

「卒ゼミの学びは、教員人生におい

てどのような影響があったのですか？」

齋川さん

「本の冒頭で「同じ教材、同じ教授法で授業を行っても、教師の力量以外に子どもの力量の差もある。」と述べられています。子どもによって、受け止めは異なるのだから、同じように働きかけても違いはあつて当然ということです。よいと思つてやつても、響かない子は必ず居る、だからこそ、個に着目する。このことは、子どもに向き合うとき、生涯、教員生活を貫く学びになりました。」

この後、まだまだお話は続きます。今回も同窓会事務局杉山さんと小林でインタビュースせていただきましたが、齋川さんと杉山さんで大いに盛り上がった長岡分校時代の「きつきさん」のお話、女性管理職を志すきっかけとなった出来事など、是非ご紹介したい内容がたくさんありましたので、次号と合わせて二回連載とさせていただきます。

後から後から泉の如く湧いて出る様々なエピソードに聞き入り、あっという間に時間が過ぎました。二〇年以上前に参加させていただき、圧倒された新潟小学校時代の齋川さんの授業研究、時を経て、個に着目した授業づくりへの熱い思いを改めて感じた時間でもありました。